**第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会
報告書**

素案

第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会

第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会

目次

はじめに	3
第1章 評価の目的と流れ.....	3
1. 武蔵野市コミュニティ評価委員会の役割.....	3
2. 評価について.....	4
(1) 評価の目的・視点.....	4
(2) 評価の対象.....	4
(3) 評価委員会の構成.....	5
第2章 評価の方法.....	6
1. 評価の基準	6
2. 評価の方法	6
(1) 利用者アンケート調査.....	6
(2) 無作為抽出アンケート調査	8
(3) 意見交換会及び視察.....	9
第3章 評価の結果.....	10
第4章 総評.....	29
1. 全体に共通する事項について.....	29
(1) コミュニティ協議会に関する認知.....	29
(2) 事務負担について.....	30
(3) 窓口当番手当について	32
(4) コミュニティ協議会の情報共有の進め方	32
2. 市に対する提言	32
資料編.....	33
1. 議論の経過	33
2. 各コミュニティ協議会の概況.....	33
3. 各種調査結果.....	33
(1) 無作為抽出市民アンケート.....	33
(2) 利用者アンケート.....	33
(3) 意見交換会結果.....	33
(4) 視察	33

はじめに

(加筆予定)

第1章 評価の目的と流れ

1. 武蔵野市コミュニティ評価委員会の役割

武蔵野市では、昭和46年の第一期基本構想・長期計画においてコミュニティ構想を提起し、市民の自発的なつながりによるコミュニティづくりを推進してきた。このコミュニティづくりにおいて中心的な役割を担っているのが、コミュニティ協議会である。

コミュニティ協議会は、市内に19館（分館等を含む。）あるコミュニティセンターを運営し、コミュニティセンターを活動拠点として市民による自主三原則（自主参加、自主企画、自主運営）に基づきそれぞれ独自性をもってコミュニティづくりに取り組んでいる。

一方、近年では、地域課題も複雑化・多様化しており、福祉、子育て支援、青少年健全育成、防犯・防災、環境、まちづくり等の幅広い分野で、市民が自主的に行う活動や市民と行政とが連携や協働により行う取組みがより一層求められている。

こうしたなかで、コミュニティづくりや地域課題への取り組みにおいて、コミュニティ協議会は非常に重要な役割を果たしている一方で、担い手不足の課題、担い手の意識の変化とやりがいの維持、地域におけるネットワークの構築及び武蔵野市のコミュニティの特性の認知度など、様々な課題に直面している。また、コミュニティ協議会が運営するコミュニティセンターがこれまでと同様又はそれ以上に市民活動の拠点としてその機能を果たせるよう、運営者であるコミュニティ協議会の取組みについて評価を行い、より効果的な施設運営や取組みの発展につなげていくことが求められている。

こうした状況を踏まえ、本市では、武蔵野市コミュニティ条例（平成13年12月武蔵野市条例第33号）に基づいて、各コミュニティ協議会の施設運営や事業内容について体系的に評価し、広く市民及び市長に対する説明責任を果たすとともに、施設運営や事業内容をより一層向上していくことを目的として、第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会を設置した。

この第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会での評価活動を介して、各協議会によるコミュニティづくりの状況を広く市民に公開することで、より開かれた運営となることを目指すとともに、今後も、コミュニティセンターを拠点としたコミュニティづくりの活動が進展するよう、各協議会の活動を多くの市民へ周知することを目的とするものである。また、この評価活動を通して、各コミュニティ協議会が、日々の活動とコミュニティセンターの運営の振り返りを行うとともに、他のコミュニティ協議会による取組みを参考にして互いに学び合い、高め合う機会とすることも大きな狙いとなっている。

2. 評価について

(1) 評価の目的・視点

本市では、昭和 46 年に定めた第一期基本構想・長期計画以来、市民自治を掲げ、市民施設のネットワーク計画とコミュニティ構想により、「多世代が集う地域の居場所」、「地域における市民活動の拠点」としてコミュニティセンターを整備してきた。コミュニティセンターはそれぞれの地域の住民が組織するコミュニティ協議会によって管理運営が行われており、協議会はコミュニティセンターを拠点として、自主三原則（自主参加・自主企画・自主運営）に基づき自主活動としてのゆるやかなコミュニティづくりを進めている。

こうしたコミュニティ協議会の活動は、コミュニティセンターの管理運営と相まって、市民の自主性を高める市民自治のまちづくりの要として位置付けられており、各種自主事業等の個々の活動についてはそれぞれの協議会の自主に委ねている。同時に、平成 17 年より本市では指定管理者制度に基づいてコミュニティ協議会にコミュニティセンターの管理運営を委託しており、市は委託者として協議会が適切に管理運営を行っているかを検証する必要がある。

そのため、本評価委員会の目的の第一は、コミュニティ協議会の取組みが客観性・透明性をもって適切に行われていることを確認するとともに、協議会の活動の意義を広く周知することによって、コミュニティ協議会とコミュニティセンターが市民活動の要として一層開かれたものとなることである。目的の第二は、各コミュニティ協議会が評価委員会による評価活動を通じて自らの取組みを振り返り、また他の協議会の状況を知ることによって、新たな気づきや学びにつながり、今後の活動の発展に資することである。（加筆予定）

(2) 評価の対象

本評価委員会での評価対象は下記の 16 協議会である。

1. 吉祥寺東コミュニティ協議会	9. 中央コミュニティ協議会
2. 本宿コミュニティ協議会	10. 西久保コミュニティ協議会
3. 吉祥寺南町コミュニティ協議会	11. 緑町コミュニティ協議会
4. 御殿山コミュニティ協議会	12. 八幡町コミュニティ協議会
5. 本町コミュニティセンター協議会	13. 関前コミュニティセンター
6. 吉祥寺西コミュニティ協議会	14. 西部コミュニティ協議会
7. 吉祥寺北コミュニティ協議会	15. 境南コミュニティ協議会
8. けやきコミュニティ協議会	16. 桜堤コミュニティ協議会

(3) 評価委員会の構成

本評価委員会の委員は次の7名から構成される。

委員長 渡邊 大輔(成蹊大学文学部教授)

副委員長 町田 敏(武蔵野市コミュニティ研究連絡会会長)

委員 小山 弘美(関東学院大学社会学部教授)

委員 高橋 淳子(武蔵野市コミュニティ研究連絡会副会長)

委員 青木 滋夫(公募委員)

委員 木村 古州美(公募委員)

委員 毛利 悦子(武蔵野市市民部市民活動担当部長)

第2章 評価の方法

1. 評価の基準

各協議会が独自の工夫を重ね、コミュニティづくりを行い、運営をしているかどうかを中心として、以下の項目を基準とした。

図表 1 評価の視点

評価の視点	視点の内容例
① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上	<ul style="list-style-type: none">・ 利用者への配慮と適切な対応・ 施設の利用方法の工夫（施設の特色を生かした活用）・ 多様な利用者への配慮・ 情報の提供（情報提供、情報発信の工夫）
② 地域におけるネットワーク機能	<ul style="list-style-type: none">・ 利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり（利用者とコミセン、利用者同士）・ ネットワーク拡大に向けた工夫・ 地域とコミセンのつながりづくり（利用団体以外とのネットワーク）・ 子どもの居場所としての機能
③ 持続可能な協議会の運営	<ul style="list-style-type: none">・ 運営委員・協力員の人材充実（人材確保・育成の取り組み、多様な参加方法への取り組み）・ 持続可能な事業の実施・ 情報の提供（情報提供、情報発信の工夫）
④ 適正な運営	<ul style="list-style-type: none">・ 会則や利用の決まりに沿った公平な運営、個人情報の保護・ 事業計画に沿った運営
⑤ 施設・設備の管理	<ul style="list-style-type: none">・ 異常時の市への連絡・報告・ 防災・防犯、防火の取り組み

2. 評価の方法

(1) 利用者アンケート調査

各コミュニティセンターの利用者を対象に①施設運営や事業内容について、「参加状況や意向」「利用者へサービス・対応」「運営者への理解」「運営に対する思いやニーズ」の観点から満足度を把握するとともに、今後のコミュニティセンターに求める機能について利用者より意見を収集する

※調査結果から得られた主な示唆を追記予定

図表 2 利用者アンケート調査の実施概要

調査の概要					
【調査対象】					
・ 各コミュニティセンターの利用者					
【調査内容】					
(1)回答者属性					
・ 性別、年齢、住まい					
(2)利用状況					
・ 利用頻度、利用目的、利用人数					
(3)事業への参加状況及び意向					
・ コミセン主催・共催事業への参加経験、今後の参加意向					
(4)コミセンの運営に対する知識					
・ コミセン運営者に対する理解					
(5)サービス・運営への満足度					
・ 窓口対応、公平な運営、情報発信、総合的な使い心地					
(6)コミュニティづくりへの意見					
・ コミセンがどのような場所であるべきか					
【調査方法】					
・ 各コミュニティセンターにて利用者に直接配布、回収ボックスでの回収					
【調査時期】					
・ 令和6年6月14日（金）～8月22日（木）（※緑町コミセン及び西部コミセンでは工事のため実施時期は7月上旬まで）					
【回収状況】					
①吉祥寺東	272 件	⑦吉祥寺北	121 件	⑬関前	202 件
②本宿	211 件	⑧けやき	193 件	⑭西部	41 件
③吉祥寺南町	177 件	⑨中央	336 件	⑮境南	202 件
④御殿山	206 件	⑩西久保	267 件	⑯桜堤	68 件
⑤本町	572 件	⑪緑町	119 件		
⑥吉祥寺西	40 件	⑫八幡町	133 件		

(2) 無作為抽出アンケート調査

第五期コミュニティ評価委員会の実施にあたって、地域コミュニティに関する意識やコミュニティセンターの認知度及びそこでの活動の現状等を把握し、地域コミュニティの拠点であるコミュニティセンターに、今後どのような機能・役割が必要かを検討する際の基礎資料とすることを目的として、無作為に抽出した武蔵野市民 2500 名に対し、「地域コミュニティについての市民アンケート調査」を実施した。アンケート調査の実施概要は以下に示すとおりである。

※調査結果から得られた主な示唆を追記予定

図表 3 無作為抽出アンケート調査の実施概要

調査の概要
【調査対象】
・ 住民基本台帳から無作為抽出により満 15 歳以上の男女 2500 人を抽出
【調査内容】
(1)回答者属性
・ 性別、年齢、職業、世帯構成、居住地区、居住年数、普段の情報収集の方法
(2)地域との関わり
・ 近所住民との近所づきあいの程度、「地域」のイメージ、地域との関わりについての今後の意向、「地域」をよりよくするためにあると良いつながり
(3)地域コミュニティ活動について
・ 地域コミュニティへの参加状況、現在参加している地域コミュニティ活動の団体、参加したきっかけ、参加している地域コミュニティ活動が抱えている課題、コロナ化を経た変化、(現在、地域コミュニティ活動に参加していない層の)地域コミュニティ活動への関心の有無及びその理由、地域コミュニティ活動に参加しやすくなるために必要なこと
(4)コミュニティセンターについて
・ コミュニティセンターの認知度、コミュニティセンターが地域住民によって運営されていることの認知度、利用しているコミュニティセンター、コロナ化を経たコミュニティセンターの利用の変化、コミュニティセンターの運営面に携わった経験、コミュニティセンターを利用していない理由、コミュニティセンターに求める機能・役割、コミュニティセンターに求める空間や設備、コミュニティセンターの企画・運営への関心意向
【調査方法】
・ 郵送配布、郵送又はインターネット上の回答フォームより回収
【調査時期】
・ 令和 6 年 6 月 14 日 (金) ～ 7 月 31 日 (水)
【回収状況】
・ 984 票 / 2500 票 (回収率 : 39.4%)

(3) 意見交換会及び視察

① 視察

全 17 施設(中町集会所含む。)を対象に、施設・設備の特徴や課題、コミュニティ活動との関係性などを確認することを目的に、評価委員によるコミュニティセンターの視察を実施した。

図表 4 視察の実施概要

意見交換会	概要			
第 1 回 6 月 9 日	①境南	9:00~9:45	⑥緑町	13:55~14:20
	②西部	9:55~10:30	⑦けやき	14:45~15:15
	③桜堤	10:40~11:05	⑧吉祥寺北	15:25~15:55
	④関前	12:30~13:10	⑨吉祥寺南町	16:15~17:05
	⑤八幡町	13:15~13:50		
第 2 回 6 月 29 日	①西久保	9:30~10:20	⑤御殿山	13:45~14:25
	②中町集会所	10:30~10:40	⑥本宿	14:45~15:25
	③中央	10:50~11:30	⑦本町	16:25~17:00
	④吉祥寺西	11:45~12:30		

② 意見交換会

全 16 協議会との意見交換会の実施にあたって、事前調査票（コミュニティセンター及びコミュニティ協議会の良い点、コミュニティづくり、施設の運営、協議会の運営等）を配布し、各コミュニティ協議会から事前に回答を得た。当日は、その事前調査票に基づいて、評価委員と各コミュニティ協議会との意見交換を行った。

意見交換会の会場は各コミュニティセンターを基本とし、評価委員会が巡回して行った。なお、協議会の希望や施設改修中等の事情により、境南・西部・桜堤は市民会館にて、緑町・八幡町・けやきは市役所にて実施した。

図表 5 意見交換会の実施概要

視察	概要			
第 1 回 9 月 13 日	①本宿	: 9:30~10:10	⑤西久保	: 14:20~15:00
	②吉祥寺東	: 10:30~11:10	⑥境南	: 15:20~15:50
	③御殿山	: 11:40~12:10	⑦西部	: 16:00~16:40
	④吉祥寺南町	: 13:15~14:00	⑧桜堤	: 16:50~17:35
第 2 回 9 月 14 日	①緑町	: 9:30~10:20	⑤八幡町	: 14:05~14:45
	②けやき	: 10:25~11:10	⑥本町	: 15:15~16:00
	③中央	: 11:20~12:05	⑦吉祥寺西	: 16:20~17:05
	④関前	: 13:10~13:50	⑧吉祥寺北	: 17:15~18:00

第3章 評価の結果

※評価の取りまとめの方針・方法について追記予定

以下の各コミュニティ協議会に関する①～③の記載は、意見交換会及び事前調査票における各協議会の考えを記載している。

◆吉祥寺東コミュニティ協議会

①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ 規模の小さいコミセンのため、施設管理の労力が他コミセンと比較して少なく、利用者・地域住民のニーズを踏まえた事業の充実に力を入れている。
- ・ 「九浦の家コンサート」や「アジアを知ろう」などの代表的な催しが盛況であるほか、月に1回開催する「コミュニティのつどい」では、ふるさと歴史館や市の吉祥寺まちづくり事務所（都市整備部）、総合政策部の職員などとも連携して様々なテーマでの講座や語り合いの場を設けており、利用者や地域住民の声を吸い上げる場として活用している。
- ・ 利用者に均一の対応をすることは窓口の基本事項と考えており、「窓口業務マニュアル」及び運営委員ハンドブックを整備している。新しく運営委員になった人はベテランと組むなど、窓口対応を行う運営委員のペアリング等も工夫し、問題が生じないようにしている。
- ・ 転入者への情報提供に課題を感じている。転入時に渡されるコミセンガイドはあまり活用されておらず、市報でもコミセンの活動や行事について十分に紙面を割いて情報発信することは難しい。今後吉祥寺東コミセンとしてチラシを作成し配布するようなことも検討している。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ 地域住民が楽しみ、語り合い、学び合う場を提供することを目的に企画運営をしている。特に、「コミュニティのつどい」では様々な方が講師として携わっているほか、毎月テーマが異なるために多様な人が参加している。一方で、関心を持ってもらえるテーマ設定には苦心しており、回によっては盛り上がらないこともある。コミュニティセンターとして地域課題に能動的に働きかけテーマ設定をするようなあり方も必要であると考え試行錯誤している。
- ・ 新たな利用者層の拡大のため、コミセンにおける映画上映会を企画しており、近隣の小中学校に声掛けをしている。このような企画を通じて、これまでは利用の少なかった層（若年層など）とのつながり創出に努めている。

③持続可能な協議会の運営

- ・ 運営委員は40名ほどおり、うち4分の1程度は学生である。小さいころからコミセンを利用していた子が高校生・大学生となり、窓口業務に携わってくれている。窓口業務が主ではあるものの、「小中学生にももっとコミセンに親しんでほしいので自分たちも何かしたい」との申し出があるなど、自主事業にも関わってもらい良い循環ができつつある。

- ・ 学生の運営委員にとっては、自分たちのアイデアが反映されたり、自分たちの企画が実現できたりすることが、運営委員として関わるやりがいにつながっていると思われるため、今後も活躍の場を提供していきたい。また、大人として運営委員の仕事に任されることで、本人たちの成長にもつながっていると感じる。
- ・ 窓口業務のマニュアルが完備されていることは、学生をはじめ新しい運営委員に関わってもらうために重要であると考えている。
- ・ 運営委員会では非常に活発に意見が出される一方で、長い時間かかってしまうことも多く、運営委員として関わる「やりがい」や「楽しさ」が削減されるとの指摘もあり、改善を目指している。
- ・ 若い運営委員も一定数いるものの、全体的な運営委員の高齢化は課題。そのほか、IT スキルを高め業務の効率化を図っていく必要性を感じている。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※ コメント記載予定

◆本宿コミュニティ協議会

①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ 赤ちゃん連れの親子、ゲームをする小中学生、勉強する高校生、大学生、社会人、おしゃべりに興じる高齢者と幅広い年代に気軽に利用されているため、居心地の良い施設となるように配慮している。
- ・ コロナなど社会状況に対し細やかな対応（消毒液の設置など）を心がけている。
- ・ 地域の方々に幅広く利用していただくため企業には貸し出しをしない、少人数の部屋の時間貸しをOKとするなど柔軟な対応をとっている。
- ・ 課題として、団体利用の部屋予約の際、申請者以外が全員市外の時にどのように対応するかがあげられる。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ 地域の方々と意見交換の場として利用者懇談会を開いている。
- ・ 防災に力をいれて取り組み、9月の1か月間を防災月間として全利用者に発災時の避難行動を直接説明する時間を設けており、運営委員の訓練にもなっていると同時に、利用者と直接話し合う場にもなっている。ここ数年地域フォーラムは防災に特化した内容であり、これにより地域との相互理解を深めている。
- ・ 地域の清掃活動は、参加者が地域のことを知る、地域の人々と交流する機会ともなっている。

③持続可能な協議会の運営

- ・ 少数精鋭の運営委員がそれぞれの得意分野に力を発揮している。
- ・ 運営委員がやりがいや楽しさを感じられるような企画を立てている。
- ・ 課題は運営委員の人数が少なく、なかなか増えないこと、高齢化が進展していることであ

る。

- ・ 運営委員募集のポスターを張り出しているほか、地道に声掛けをしており、知人への声掛けがや利用者への声掛けなどを行っている。また、住民総会の際の選任に限定せず、通年でいつでも運営委員になれるようにした。
- ・ コミセン HP のほか、X 等で取組みの紹介や運営協力をお願い等の情報発信をしていきたいと考えている。
- ・ 一時的にでも関わってくれる人が、関わりを続けられる規則にしたい。運営委員として登録しているが普段は仕事の都合等で参画できないが、その方のスキルが必要となった時に支援していただくというように。地域の児童の親も今はほとんど共働きなので、会議に出られないと運営委員になれないという条件は難しいと感じている。
- ・ 役員になると業務が増加し、研連や各種研修に行かねばいけないことも負担となっている。
- ・ 窓口の人のやりくりが難しいということはあるが、負担という意味では窓口より運営企画の方が時間をとられている。企画を立てるのは楽しいが、昨年度実施した企画を列挙して希望を募ると全部希望が入ってしまう状況で、企画が減らない状況である。
- ・ 協力員については、運営委員が協力員にコミセンだよりを届け、配布後、状況報告をコミセンにしに来てもらって繋がりを保っている。ただし、協力員も高齢化し、まつりの設営が難しくなっている。コロナ禍を経て、コミセンまつりの運営が協力員頼みという意見もある。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※ コメント記載予定

◆ 吉祥寺南町コミュニティ協議会

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ 本施設は、音楽・ダンス・演劇など市民の文化的欲求にも応えられる大型館であるため人気がある。
- ・ ピアノ設置のホールとスタジオ 2 つという、音楽活動が可能な部屋の多い市内でも数少ない施設なので、市内各地域から予約者があり、抽選で対応している状況である。
- ・ スタジオの利用者が多く、できるだけ公平で利用しやすくなるように、隙間時間を使えるような利用ルール、当日利用の柔軟なルールなどの工夫している。
- ・ それ以外にも、状況の変化に合わせて、開館・閉館時間や貸し出し条件など、利用のルールは柔軟に運用している。
- ・ 囲碁・麻雀などグループサイズごとの人数が少ない利用団体の増加に対応するため、会議室の分割も視野に入れて検討している。
- ・ 囲碁・麻雀・ゲームなどの利用は、一般利用者の利用の妨げにならないような工夫が必要である一方、これらの方々も楽しめるようなルールづくりにも配慮が必要と考えている。
- ・ 冷暖房設備の老朽化により適温調整が難しいことが課題である。
- ・ 運営の在り方は運営委員会、窓口会などで丹念に議論されており、特に新しい取り組みや取り組みの変更に関してはしっかり議論されていると考えている。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ 約 150 人の協力員がおり、その強力により南町地域の約 6,200 戸にコミュニティニュースを配布しており、開館以来 41 年間で 521 号の発行配布を継続している。
- ・ 大変だが地域の情報が欲しい人には結構見てもらえており、他の団体の情報も掲載しているなど、地域の活動につながっている。また、配布が地域の点検活動にもなっている。
- ・ ただし、近年は配布担当の高齢化により配布範囲の変更や調整などが課題となっており、全戸配布をいつまで続けられるか危惧している。
- ・ 地域のことを知っている、地域の方々が利用できる施設という立場は維持できている。
- ・ 一方で、地域の人たちをコミュニティ活動に巻き込むこと、活動への参加や一緒に何か活動を生み出すということは十分にできていないと感じている。
- ・ 運営委員会は議論の場にとどまり、地域と一体となった活動の主体となれていない。

③持続可能な協議会の運営

- ・ 運営委員 39 名、協力員 157 人という体制はあまり変動なく維持できているが、イベント実施時の主力となる年代層が薄く、新たな参加者を引き込む事業型の活動が弱くなっている。
- ・ 多くはないが、利用者から運営にかかわる立場となった委員もいる。
- ・ コミセン利用の子どもママ友に窓口の勧誘を行ったりもしている。
- ・ 運営委員と窓口担当が役割分担しており、窓口が貸館業の中核となり、運営委員会が①窓口の運用方針を確認・チェック、②コミュニティに対する（巻き込むイベント）の決定・実施を担うことが基本となっている。
- ・ 運営委員会から新たな提案が生まれてこない。例えば文化祭でも場所貸し的な要素が強くなっている。企画力のある自在が少ない点が課題である。
- ・ 運営側に若い人が少ないと若者向けの企画が少なくなり、若者のコミセン離れが進むため、若い世代の参加が重要であると考えている。
- ・ コミセンの協力のもとに行っている個人的な取り組みだが、南町居場所プロジェクトというものを立ち上げて居場所のとして地域の皆さんが参加するイベント・活動を企画、運営している。このような活動主体をコミセン組織内に持つことが良いと考えているが、難しい状況である。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※ コメント記載予定

◆御殿山コミセン

①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ この地域で生まれ育った運営委員の方々も多く、歴史あるこの地域を見守り愛着を持って活動に参加している。

- ・ 利用促進に向けて、事業案内のポスターや看板等で、早期からの声掛けとアナウンスをしている。
- ・ 入館しやすい演出と、館内の明るい雰囲気作りを心掛けている(四季の折り紙や手作り作品の展示など)。
- ・ 利用者の意向を反映するために、独自の利用者アンケートを実施し管理、運営に役立っている。
- ・ サークルとして利用申請があっても、実際には有償教室であるということがあり、管理運営上の課題となっている。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ エリア内の全世帯へのコミセンだよりの配布に努めている。
- ・ この地域の住民は、コミセンはあって当たり前だと思っており、運営は誰かにお願いしたいと考えているのではないかと感じる。

③持続可能な協議会の運営

- ・ 運営にあたって一番課題になっているのは、やはりマンパワーである。一部の人に負担がかかっており、窓口や会議など、関わるにつれて責任も時間的拘束も増える状況にあり、ボランティアの域を超えていると考えられる。
- ・ 一方で、少ない人数なので、関係が密になるので連絡はつきやすいという利点もある。
- ・ 昔から協力していただいている方もいるが高齢化しており、一方で新しい方の担い手が不足している。このため、事業の見直しや、若い人に窓口に入っていただくといったことを進めている段階である。
- ・ 高齢者ばかりだと、若い方は入りにくくなりそうなので、窓口はなるべく若い人で揃えたいと考えている。
- ・ はじめての試みとして有償ボランティアのチラシをエリア内の個人宅にポスティングしたところ反響があった。
- ・ チラシやポスターの作成、買い出し等、事業の企画が特に大変であり、ある程度お膳立てをして指示を出すなど、事業の企画においても役員の負担が大きい。
- ・ 窓口担当の確保が困難な状況にあるが、役員が窓口担当を担うのは、結果的に運営全体を見ることになるという利点もある。また、主に窓口担当として窓口に入っている時間に企画を考えている。一方で、協力員は興味のあるところだけに参加されるので、こうしたことを強制はできない。
- ・ 新しい事業として趣味の会、スマホを楽しむ会など継続的に行う事によって、地域の人々に御殿山コミセンを知って頂くキッカケになり、運営委員もやりがいを感じる事ができた。
- ・ コミセンに関する情報発信はポスター掲示やホームページで行っている。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※ コメント記載予定

◆本町コミュニティセンター協議会

①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ コミセン事業に対して運営委員皆で協力して活動している。
- ・ 吉祥寺駅から近いという立地の良さがあり、利用者は多いが、市外利用者が多い。
- ・ 1階のサロンには地域の高校生もふくめた若い方の利用が多く、机の並べ方を工夫して一人でも多くの方が利用できるようになればと考えている。
- ・ 障害を持っている人が利用されるケースも増えているが、専門知識も無いので対応が難しい局面もある。以前に比べてこうしたケースが増加しており、しっかりと対応することも必要と考えられるため、たとえば市で学習会を高い頻度で実施してもらえるとよい。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ 地域の方々が一人数でも多くコミセンに足を運んで頂けるよう、新しい事業の企画等を運営委員会で話し合いを続けているが、ネットワークづくりまでは運営委員の人数の関係もあり十分に行えていない。
- ・ 声かけは重要で、利用者や地域の人たちを笑顔で迎えることが重要だと思っている。以前より窓口担当者が明るい声で対応するようになってきている。一人暮らしの高齢者で、ここでの声掛けが人と話す貴重な機会になっている人もいるようだ。
- ・ 地域の清掃活動に取り組んでおり、この活動が、参加者が地域のことを知る、地域の人々と交流する機会ともなっている。

④ 持続可能な協議会の運営

- ・ 運営委員の高齢化が進み、一番若い運営委員でも 50 代後半である。また、運営委員が少ないという課題があり、将来にわたり続けていけるのか不安がある。特殊な立地であり、周辺にマンションも多いが、マンション住民の参加者や利用者は少ない。基本的には知人を中心とした一本釣り地道に声かけを進めている。
- ・ 4年後の移転を見据えて、移転後はもっと若い人が中心になって運営してほしいと思っている。今のコミセンのルールは若い人にとって窮屈と感じる面もあるのではないかと考えており、世代交代に伴ってルールを見直した方がよいと考えている。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※ コメント記載予定

◆吉祥寺西コミュニティ協議会

①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ 委員は運営に長く関わっている人が多く、行き届いたサービスを実施することで、安全で安心な利用の場を提供している。また、伝統的に庭の手入れを良くし、子供向けの事業の場として有効に利用している。
- ・ コロナで利用者が減ったため、人数・回数・時間等の利用条件を定期的に見直している

ほか、分館のスマートロック導入に併せて開館時間を変更するなど利便性の維持向上に努力している。

- ・ 新規事業にも随時取り組んでいる。新規事業を立ち上げるためには労力が必要となるため、自然には発生しない。新しい事業を立ち上げる仕掛けの一つとして、投書箱に何をやってほしいかという意見を求めた。スマホ教室やボッチャ倶楽部などはこの結果生まれたものである。

② 地域におけるネットワーク機能

- ・ 新規事業の立ち上げ（生き生き体操、ボッチャ倶楽部、スマホ教室、ヤングママ料理教室）をしている。また、NPO、大学ボランティア、PTA、商店会等と幅広く連携（共催、協力、ネットワーク）して、みかづき子供食堂、コミセンまつり、西公園なかよし祭り、料理教室などの各種事業を実施している。こうした事業を通じて地域住民交流の拠点を成している。中でも「みかづき子ども食堂」は、子どもやその親との交流の機会として意義も大きかった。また大学との連携も実施している。
- ・ 地域の各団体が参加する「地域懇談会」を、コミュニティ協議会がコーディネーターとなって開催してテーマを決めて意見交換を実施することで、地域の団体との連携を確保している（今年度は防災）。地域のお祭りの開催に向けて年2回は議論して進めている。
- ・ 地域活動をしていると、そこで活動している人がおおよそ見えてくることで、人材の発掘につながる。それぞれ今も忙しくしているが、頼めば活動に参加していただけることもあり、こういう方に将来運営委員になっていただきたいと感じている。また、学校との連携の中でPTAと連携すると、将来子どもが学校を卒業した後に次世代の運営委員の有力候補になると期待している。さらに小学校ではコミセンの見学会を実施しているのので、そこで知った小学生が利用者になるとよい。
- ・ スマホ教室を立ち上げたのは30代の運営委員だったが、自分で事業を起こせるような能力のある方であったことから、運営委員以外の場所での活躍を期待して運営委員からは外れ、今は外部協力者として活躍いただいている。

③ 持続可能な協議会の運営

- ・ 高齢者が多く、土日夜間の窓口対応可能な委員が不足するなど、委員構成の偏りがある点が課題。
- ・ 昨年から窓口担当を募集するポスターを施設周辺に9箇所掲示したが、有償であると明記することで、令和5年度に男女5名ずつ10名の応募につながった。最終的には女性は抜けて、他に仕事を持っている男性5名が残っている。募集に際しては、運営委員会には出られないが窓口は担当したいという希望も柔軟に受け入れており、こうしたことも人材確保においては有効であった。
- ・ 業務の電子化への対応の遅れにより、協議会内及び対外業務の効率化と利便性に立ち遅れが発生している。コミセンの運営上の大きな課題は専門の事務職がおらず事務負担への対応が困難であることである。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

◆吉祥寺北コミュニティ協議会

①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ エアコン付の体育館や明るく広い1階のロビー、図書館コーナー等多様性のある会議室、寄贈品の珍しいグランドピアノ（ベヒシュタイン製）の利用者開放等、設備（備品）が充実しているだけではなく、幹線道路から離れた住宅地に立地しており、周辺には商業施設等がないことから利便性の高い大型施設として利用されている。
- ・ 一定の館内ルールは確保しつつ、当日空室の場合は、柔軟的な利用ができるよう「住民目線」での管理・運営を心掛けた結果、コミセン利用者が大幅に増加した。
- ・ 利用者へは、挨拶と笑顔で接する事を心掛けており、窓口の担当者ごとに対応が異ならないよう留意している。
- ・ 従前より課題であったコミセンの予約のオンライン化を個別に検討しており、今年の住民総会で問題提起している。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ 特定の団体のみならず、親子連れが当日利用で気軽に立ち寄っていただけるような雰囲気づくりに努めている他、将来の担い手づくりの一環として、日常的に親子連れの子ども達に「長風船」をプレゼントする取組も行っている。
- ・ 多様性のある年代層に参加してもらえるようなイベントの企画・開催を目指しており、『ふれあいひろば』（子ども・大人食堂）を毎月開催するなど、福祉的な事業も充実させている。
- ・ 地域の方々にコミセンやその活動内容について周知することが重要だと考えており、LINEオープンチャットの開設（2023年11月）（8/20現在会員数78名）やホームページへの「北コミュニティだより」のアップなど SNS による広報活動に力を入れている。現在、NPO 法人サービスグラントのデジボノチームとの連携により、無コストによるホームページのリニューアルに取り組んでいる。
- ・ 地域づくりは運営委員やコミセンのみで作るものではなく、地域住民とコミセンが一体となって取り組んでいくものと捉えており、今後もこれを目標に努力を重ねたいと考えている。

③持続可能な協議会の運営

- ・ 運営委員（兼窓口当番）のうち6名が現役大学生であり、パソコンの活用促進や新しい感性・発想の掲示物作成等、好ましいインパクトが発生している。また、窓口で大学生が立つことで利用者から興味関心を持ってもらうきっかけにもなっている。
- ・ 勤労者や学生の運営委員が増加したことにより、各会議体の開催時間を夕方からに変更したり、窓口当番を2時間×2組制で4時間確保するシステムやシフトのエントリー制を導入したりといった転換を図った。
- ・ 管理運営においては、自主三原則ルールの思想を基本に、決して強制・強要することなく緩いコミュニケーションの醸成に取り組んでいる。

- ・ 営利目的によるコミセン利用については他コミセンにとっても難しい問題であるが、利用の可否を営利、非営利ではなく、公益的（地域に貢献する活動）かどうかで判断すべきではないか。研連の前会長の「コミセンは地域の活動を阻害してはならない」という考えに賛同しており、やみくもに営利を制限することにこだわるべきでないとも考える。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※ コメント記載予定

◆ けやきコミュニティ協議会

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ 利用者には元気に挨拶する等、コミュニケーションを大切にしており、誰でも自由、気軽に利用できるよう柔軟な対応を心掛けている。
- ・ 入館時の記名不要、麦茶サービス（冷・温）や窓口でのコーヒー提供など、心地よく滞在しやすい場の提供を心掛けている。
- ・ おまつり等イベントの際に利用することもあるため、隣接する公園の花の手入れやゴミ・落ち葉の清掃、落とし物や子供のけが対応等も行っているが、市の公園担当課との調整が円滑に進まないことがある点が課題と考えている。

② 地域におけるネットワーク機能

- ・ 毎年続けている3大イベント（けやきまつり、夏まつり、どんど焼き）を通じて地域の人と人が繋がる機会を設けている。
- ・ 夏まつりで1つの部屋を成蹊大学生に貸して、準備に係る費用だけ負担し、「好きなことをやってよい」と任せたとこ、お化け屋敷の企画・運営を行い、好評を得た事例がある。地域の人に「けやき（コミセン）に持ち掛けると、前向きに考えてくれる」という認識を広げる必要がある。
- ・ 地域団体に関わる運営委員も多く、それぞれの地域団体の課題を持ち込んだり、反対に地域団体に対してコミセンの情報を提供したりしてくれており、地域団体で総会やイベント行うときは部屋を優先的に貸し出すなどの協力をしている。

③ 持続可能な協議会の運営

- ・ 窓口人員が30数名いるが、トイレトペーパー係、コーヒーカップを定期的に漂白する係など役割を細分化して希望制で割り振ることで、各自の負担感を減らすとともに役割意識を得られるよう工夫している。一方で、負担感の少ない役割に希望が集中する傾向があり、会計や企画などのコアの部分は中間年齢層が担わざるを得ない点が課題である。
- ・ イベント等を企画・運営する際は全員参加を心掛け、小さなことも皆で話し合い納得することを大切にしている。
- ・ シニア世代の運営委員は窓口などで人とのつながりが生まれ、運営委員同士でも交流がありとても生き生きと活動する場となっている一方で、企画がシニア世代向けに偏ってしまっている部分もある。

- ・ 新しいことを企画しようとする人が少なくなっており、若い人に継続的に参加してもらえるよう運営の楽しさを伝えていく必要がある。
- ・ 運営委員の高齢化が進んでおり、利用者や関わりを持った多くの人に声かけをして協力を依頼しているため、おまつり等イベントの手伝いは充足しているものの、運営として参加してくれる人がなかなか見つからない点が悩ましい。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※ コメント記載予定

◆中央コミュニティ協議会

①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ 1階ロビーは誰もが気軽に立ち寄ることができるオープンスペースとして、囲碁をはじめ、少人数でのおしゃべりや休憩、小中学生のグループ学習など幅広い年齢層の方々に利用されている。中町集会所も同様に、1階の集会室が空いているときは休憩に使ってもらう等、柔軟に対応している。
- ・ 交通の便がよく、市内他地域や他市からの利用者も多いことから、地域住民（申請者）の優先予約を行っている。
- ・ 1館分の備品費で中央コミセン・中町集会所の2館分を賄う必要があるため、備品が不十分であることや、両館とも防音・遮音の部屋がないので利用に制限を設けざるを得ないことを悩ましく思っている。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ 利用頻度の高い1階多目的室について、部屋利用が早く終了したり予約がなかったりする時は卓球利用希望の小中学生に当日利用として開放し、子どもたちの居場所づくりに役立っている。
- ・ 将来的に地域を支えていく子どもたちに向けて「地域の人たちが集い、協力して地域コミュニティづくりに貢献している」ことを学ぶことができる場となっていくよう努めている。
- ・ 若い世代（子育て世代）の団体には声掛けしてイベントを開催してもらうこともあり、先日夏祭りのイベントでは1,000人以上の集客があった。
- ・ 地域社協をはじめとした地域団体、利用団体にも自主事業に参加してもらっている他、中央コミセンの向かい側にある第一中学校のPTAや生徒等にも参加してもらっている。また、第一中学校の卒業生が、高校の授業の一環でボランティアとして自主事業の手伝いに参加してくれたこともあった。
- ・ 一方で、意見交換を目的として昨年より地域の団体に声掛けしているものの、集まる団体は多くなく、思うように実施できていない。

③持続可能な協議会の運営

- ・ 運営委員や協力員の拡充には、コミセン広報紙での募集とともに利用者に積極的に声かけをしている。例えば、子ども向けの自主事業には極力親子で来てもらい、申込みの際に

協力員の勧誘を行う等の取組も実施している。

- ・ 協力員は 60 名程度であるが、ほとんどの協力員が年間で1~2回は必ず行事に参加してくれている状況である。イベントへの協力を経て、やりがいや楽しさを実感していただけているようである。
- ・ 一方で、新しく運営委員になっても負担が大きく定着しづらいことや、提出書類の作成をはじめ、業務量が増加によりボランティアの域を超えているように感じる人が増えていることが課題である。事務作業が苦手、デジタル化についていけない等の理由で役員を引き受けてもらえないケースも少なくない。
- ・ イベントへの協力も時間拘束が長いと人が集まりにくいいため、「2時間だけお願いします」など声掛けを工夫している。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※ コメント記載予定

◆西久保コミュニティ協議会

①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ 利用スペースの種類（フロア、和室、料理室、会議室、庭）と部屋数が多いことから、体育系、文科系、芸能系、料理食事系等、幅広い活動に使用可能なため、多くの方にご利用いただいている。
- ・ 駅から近く市外の利用者も多いことから、予約は一定期間を地域住民優先としている。また電話による仮予約受付や、予約可能日を調整することで利用者への便宜を図っている。また、以前は開館時間になるまで館内への入館は不可としていたが、現在は窓口の人員がいれば開館前に入館可能に変更した。
- ・ ハード面の課題として、ロビーの冷暖房設置や照明の LED 化、ソフト面の課題としては閑静な住宅地内に位置しているため周辺住民との協調に配慮する必要（草刈りの騒音など）があることが挙げられる。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ 西久保コミセンの周辺には他に公共施設がないため、地域コミュニティの拠点となる要素が強いと認識している。
- ・ 地域の他団体と積極的に協力し提携をはかっている。例えば中学生主体の「ナイトハイク」、小学生を実行委員に加えた「ふれあいまつり」等においては小中学校、青少協、PTA、福祉の会等と協力し実施している。また、十数名の委員が地域内唯一の町会組織である西久保一丁目町会と兼任しており、重要事業は共催している。
- ・ 町会以外にも福祉の会等の地域団体と兼任しているケースも少なくなく、地域団体で顔見知りになり、コミセン運営に勧誘することもある。
- ・ 協議会が地域内で、ある意味で住民を代表する団体と見られていることが正当なのかという疑問を抱いている。

③持続可能な協議会の運営

- ・ 個々の事業には希望制で参加してもらっており、多くのメンバーは楽しく実行しているように見受けられる。
- ・ 新しい人員については、年に1~2人程度の応募があり、運営委員の募集を見たり、協力員の近所に住んでいて話を聞いたりしたことが応募のきっかけになったと聞いている。コロナ禍も明けたため、これからまた少しずつ関わってもらえたらという思いがある。
- ・ 一方で、一般の管理運営についてはメンバーの長所をいかせるよう配慮して配置しているが適材適所の配置が十分に実現できていない面もある。また、運営委員の中には会社員経験がなく、市への提出文書の作成や見積取得等パソコンを使った事務作業が不得手な人もおり、一部の委員に負担が偏っている点が課題と感じている。
- ・ 運営委員の高齢化に伴い力仕事、高所での作業に人手が不足しており、若い人が入ってきてくれることを望んでいるが、手当の額などの面で厳しい状況である。
- ・ また、当初はボランティアとして地域に貢献したいという思いで参加したが、任される業務が増えており、ボランティア精神だけで行うことが難しくなっているように感じる。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※ コメント記載予定

◆緑町コミュニティ協議会

①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ 小さいコミセンだが、大人数が入れるホールがあり、コンサートや交流会など多様な活動ができています。
- ・ 令和6年度は7月から給排水設備等更新工事のための工事で休館するため、5・6月には積極的にイベント等を開催した。特に、例年8月に開催される「子どもまつり」を5月のゴールデンウィークに開催し、大盛況であった。施設は狭いが、近隣のテニスコートも借りて体を動かす企画なども実現できている。
- ・ 以前は9:30~21:30の開館時間だったが、21:00過ぎはほとんど利用者が無く、市と協議し、実態に合わせて9:00~21:00に開館時間を変更した。また、ニーズを踏まえ、中学生の利用時間の延長を行っている。
- ・ コミュニティセンターがボランティアで各館独自に運営されていることを知らない人が多いため、利便性の面やコミセン間で対応が違うことに、不満が上がる可能性があるように思う。市民の自主運営であることは、行政側からももっと情報発信が必要だと感じている。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ 緑町にある町内会、UR・都営住宅、商店街、高齢者総合センター、老健（介護老人保健施設）など12団体からメンバーが集まり、毎月「緑懇話会」を開催している。これまでにコミュニティバスの要望書を出したり、市の防災課職員も呼んで防災に関する意見交換会を開催したりした。緑町はかつてより地域団体が協力して地域のこと（例えば、千川小学校の建て替え、クリーンセンターの建設など）を話し合ってきた歴史があり、関係性の

ベースがある地域だと感じる。

③持続可能な協議会の運営

- ・ 運営委員は良く連携して精力的に活動できている。令和6年7月からの休館中にも運営委員会を開催し、再開後の運営について話し合いを設けている。
- ・ 人材不足と高齢化は課題になっている。年に1回のコミセンまつりでサポートしてくれる協力員等はあるものの、コンスタントに運営に携わってくれる人が乏しい。運営委員には緑町在住を条件としているため、近隣大学に通う大学生などは入ってこれない制約がある。
- ・ できるだけ人材流入をスムーズにするため、かつては総会手続きを経なければ運営委員になれなかったのを、毎月の運営委員会で承認されればすぐに活動できるよう手続きを簡略化した。
- ・ 現在も年間2~3名は運営委員の新規加入があるが、仕事の関係で抜きたいという人もいるのが現状。そのようなときは、辞めてもらうのではなく、名前だけは残して年1回でも関わってもらっている。
- ・ 運営委員としての日々の活動は難しい高齢者にも、ご意見番として時々運営委員会に出席してもらうなど、できる範囲での関わり・繋がりは断ち切らないようにしている。
- ・ しばらく活動を休んでいる運営委員でも、時期によっては関わるのが可能かもしれないため、翌月の分担を考える際に一応声掛けだけは行う。
- ・ アクティブに運営委員として活動できない人であっても、いずれまた活動できるようになるかもしれないと考え、何らかの繋がりは維持している。
- ・ 窓口当番は4時間交代制だが、場合によっては2時間でも良いなど柔軟に対応している。できるだけ、メンバーの事情にも配慮し、心地よくかわってもらえるように工夫している。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※ コメント記載予定

◆八幡町コミュニティ協議会

①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ コミセン利用者やコミセンに立ち寄った人にコミセンへの理解を深めてもらうため、「コミセンってどういう場所?」「コミセンではどんなことをやっているの?」といった素朴な疑問について答えるポスターを作成している。また、コミセンで行った事業・行事の実施報告ポスターを作成し掲示している。
- ・ イベントによっては、人が集まりすぎないように市報掲載ではなく SNS で告知を行うなど、快適・スムーズな運営を行うための工夫を行っている。市報掲載は事前に市との事務的な手続きが必要であり、SNSの方が機動的に事業実施できるというメリットもある。
- ・ 明るく入りやすいロビーがあることを活かし、子ども（親子）を対象とした事業・イベントを多く行っている。利用者のニーズもくみ取り、次回の事業企画に生かしている。
- ・ ふらっと立ち寄れる雰囲気大切にしているため、ロビー利用程度であれば利用者名簿への記名は求めない（部屋を借りる場合は個人情報把握）。

- ・ コミセン利用について、営利目的でお断りする場合のボーダーラインが難しい。判断の参考となる、何らかのガイドラインのようなものがあるとよい。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ 運営委員の中で、青少協、自主防災組織、地域社協といった地域団体との調整窓口担当者を決め、普段から連絡を密に取るように工夫している。コミセン関係者と各団体の役員が重複しているケースもある。
- ・ 地域住民へ地域にある様々な団体について周知を行うことを目的に、コミセンまつりで地域団体(21 団体)の展示を行っている。
- ・ 地域の小中学校との交流機会を設けている。保護者にコミセンと関わりを持ってもらえるよう、働きかけを行っている。

③持続可能な協議会の運営

- ・ 大学生からシニア世代まで、幅広い世代が運営に関わっている。小中学生の保護者がコアとなっており、全体的に年齢層は若めである。SNS を活用した情報発信等は、若い世代のスキルやアイデアが大いに生かされている。世代の違いによる価値観の違いはあるが、まずはトライしてみることを大切に、よく話し合うことで調和が取れている。
- ・ 吉祥寺東コミセンを参考に、保護者の了承があれば高校生や大学生の運営委員参画も可能として募集したところ、大学生が2名の応募が得られた。また、イベントや行事に参加する子どもの保護者に声をかけ、定期的に常に次世代の担い手(運営委員)を探すよう地道に取り組んできた。
- ・ それぞれが可能な時間帯、内容で関わるができるよう、最大限配慮している。窓口担当も必要な時は交代できるよう、お互いに声掛けしやすい雰囲気づくりを徹底してきた。
- ・ 一方で、窓口担当者のスキルの違いから、できる人への作業の偏りと負担が生じている点が課題となっていた。窓口担当者の対応の統一のため、マニュアル作成を行うほか、窓口会議でも情報共有・確認を行うようにした。

■ 総括及び今後期待すること (評価委員会よりコメント)

※ コメント記載予定

◆関前コミュニティ協議会

①運営の工夫・利用者(住民)の満足度の向上

- ・ 通常予約以外に、前日予約、当日予約という形で空いている部屋を適宜利用可能としている。
- ・ レクリエーション室の卓球利用については1時間交代の時間制限を設けて譲り合って使用をしてもらっている。この際「単独での卓球練習」も可としているが、本来のレク室のあり方(楽しくプレイする場所)とは違うこともあり悩ましく思っている。
- ・ 音楽室があるが、楽器演奏・コーラス練習に一番人気がある部屋のため、前述の「前日予約」なしとして「当日予約」のみとし、利用時間も半コマ(1.75 時間)としている。但し、

部屋の防音機能が低く学習室が近いこともあり、一部楽器(ドラム等)は利用不可として
いる。

- ・ 調理室がなく、給湯室しかないため調理については「温め」のみまでとして利用をしてもら
っている。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ 利用者団体やヘビーユーザーに声掛けして年に1度利用者懇談会を開催している。
- ・ 音楽室利用者の発表の場を提供するため、「関前ミュージックフェスティバル」を開催して
いる。
- ・ 以下の地域イベントには実行委員会メンバーとして参加協力し地域コミュニティと連携し
ている。地域のつながりが強く、こうしたイベントが継続している。
関前八幡まつり/花火大会(主催:関前八幡親交会)
地域運動会(主催:青少協関前南地区)
どんど焼き(主催:青少協関前南地区)
多摩湖往復ナイトハイク(西久保コミセン他5団体共催)
- ・ 課題として、コミュニティ活動への関わり自体を望んでいない住民が増えつつあると感じ
ている。

③持続可能な協議会の運営

- ・ イベント運営、事務、広報等の各シーンでそれぞれに才能豊かな運営委員がおり、限られ
た時間を使って良いパフォーマンスを発揮してくれている点で、人に恵まれた協議会であ
る。
- ・ 窓口担当には定年制を敷いているが、人員確保のため弾力的に運営し、定年超過の方に
毎年、延長をお願いしている。
- ・ 運営委員には定年制がないため人数は多いが、イベントでは実質的には運営側に回るこ
とは困難になってきている委員もおり、委員間での負担の偏りが出てきている。
- ・ 加齢とともに運営委員から協力員になって残っていただく方も多いが、コミセンだよりの配
付要員も足りておらず、動ける方には複数地区を担当してもらっている。
- ・ 個人への過度な負担はやりがいや楽しさの実感を奪うことにもなり、運営委員・役員の担
い手不足の直接原因となってしまっている。
- ・ 担い手不足の問題がある一方、事務量は増えている。地域住民から「あんな大変なことは
できない」と思われ、ますますなり手が減る。
- ・ 当コミセンではSEだったかつての役員が、スタッフが使いやすいように作ったシステムを
活用している。
- ・ 地域への情報発信は広報誌の定期発行(2か月に1度、年6回)とホームページによる
広報により行っている。
- ・ チラシの投函を嫌がる市民もいるかもしれないが、コミセン便りは市報に準じる大事な媒
体ではないかと考えている。

■ 総括及び今後期待すること(評価委員会よりコメント)

※ コメント記載予定

◆西部コミュニティ協議会

①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ 大型館かつ体育館もあるため、利用用途が広い点の特徴である。事業としては、コミセンまつり、映画会、文化祭、ちびっこ運動会、コンサート等を行っている。
- ・ 窓口対応が良く、子育て世代にも優しいという声が寄せられている。
- ・ 利用者目線で利用ルールを設定しているが、大人目線に偏っているように感じる部分もあるため、今後は障害者や子どもの目線を考慮したルール設定も検討したい。
- ・ シニア世代からは、利用条件やイベントが若者寄りになっているという意見が寄せられており、現在は改修による休館中であるが、リニューアルオープン後に改めて利用者懇談会を開催したいと考えている。一方で、不満を抱えている利用者は何も言わずに去ってしまうため、改善に向けた意見を聴取できない点が課題である。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ 児童青少年課への相談をきっかけに、今年のちびっこ運動会から「中高生ボランティア」に手伝ってもらっている。ボランティア証明を発行することで、リピーターとして翌年もボランティアとして参加してくれる子や、コミセンまつりも手伝ってくれる子もいた。運営委員の知り合いの中高生に声がけをして手伝いを依頼するケースもある。
- ・ 児童館や団地の自治会、社協福祉の会、青少協・PTA、防災等の団体とコミセンの運営委員を兼任している人が多く、これらの団体との繋がりを大切にしている。コロナ禍でこれらの地域の活動が途切れてしまったため、繋がりを再構築する必要がある。
- ・ 委員の年代が若い層と高齢層に二分しているため、中間の年代の委員を増やしたいと考えている。

③持続可能な協議会の運営

- ・ 運営委員・窓口担当ともに少なく、イベント時のボランティアも不足している状況である。担い手が不足しているため、これまでは新しく運営委員として就任するには総会での承認が必要だったが、毎月の運営委員会で承認できるよう規約を変更した。
- ・ 子育て世代は、子どもが小さいうちはコミセンを利用していることもあり、手伝いに来てくれるが、子どもが成長するにつれて離れてしまうことを悩ましく思っている。夜間に運営委員会を実施する等参加しやすくなるように工夫はしているものの、担い手の増加に繋げることが難しい。
- ・ 利用者、運営委員ともに変化を嫌う人が少なくなく、前例踏襲を求められることが多い。若い世代を呼び込むためにも立場や役割の固定化を無くしていく必要がある。
- ・ 多くのコミセンが大規模改修の時期を迎えている。西部コミセンでも改修に向けた準備や片付け等で苦勞したため、改修に係るマニュアル類があると良いと感じた。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

◆境南コミュニティ協議会

①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ 「体育室・部屋ともにできるだけ使ってもらおう」「利用者の意見を笑顔で丁寧に聞く」などを目標にして、施設の安全・子どもたちの安全には常に留意するよう努めている。具体的には、以前は安全上の理由から断っていた親子連れの体育室の利用を受け入れる等の改善を行っている。
- ・ 窓口対応については、毎月窓口会議を行い、日々の運営の問題・課題を話し合って改善を図っているものの、地域住民の潜在的ニーズのくみ上げや満足度判断を定量的に把握できていないことが課題と認識している。
- ・ 施設の仕様により、若い人の興味関心が高い活動に対応できないのは残念に思っている。コミセン同士でも他のコミセンでどのような活動が可能なのかについての把握は十分ではなく、誤った情報により他のコミセンから誘導されてくる利用者も少なくないため、ホームページ等でコミセンごとに可能な活動が一覧化されていれば利用者の利便性が向上するように思う。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ 運営委員は、1～5各丁目（原則各4名）と地域の23団体（各1名）で構成され、4部会（広報・成人活動・地域対策・青少年）もしくは2特別委員会（スポーツ・自主防災）のいずれかに所属し、それぞれ活動することとなっている。それぞれの地域団体の代表が集まっているため組織的であり、昔ながらのボランティア精神が続いているように思う。
- ・ コミセンの近隣には小学校が1つしかなく、学校区域（小学生主体）としても重なっているため、地域としてのまとまりがある一方で、閉鎖的になるという側面もあることから、開かれたコミセンを目指したいと考えている。
- ・ 周辺の新築マンションの住民である親子連れの利用者は多い一方で、コミセンそのものを知らない方もいることを課題に感じている。

③持続可能な協議会の運営

- ・ 新しい人は、応募や既存の運営委員による紹介により入ってくることが多い。また、窓口担当から運営委員に転換する人もいる。協議会内の人間関係、環境作りには配慮している。
- ・ 運営委員会・協力員の人数は確保されているが、児童・生徒の保護者世代は忙しく、定着が難しいため、主なイベントではメンバー・参加者が固定化している傾向が見られる。
- ・ コミセンの運営に関わる人の高齢化が大きな課題である。
- ・ 窓口は現在の人数で対応できているものの、人員は不足していると感じている。
- ・ 昨今の物価上昇に対して、相対的に窓口手当が低いと感じている。窓口の若返りに向け若い人を呼び込むためにもインセンティブとしての増額が必要だと思う。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※ コメント記載予定

◆桜堤コミセン

①運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

- ・ 小規模でアットホームなコミセンである。小規模ながらも長く受け継がれた事業を継続し、地域との交流を大切に運営している。
- ・ 武蔵野市のはずれにあり、コロナ禍を経て若干利用者が減少している。イベントを通じて利用者を増やすべく、夏祭り等を開催している。
- ・ 地域住民に気軽に参加したいと思ってもらえるようなポスターを作成し、なるべく多くの人の目に触れるよう様々な場所に掲示している。
- ・ 事業やイベントを行うたびにアンケートを実施しており、そこで見出された課題は次回改善できるようにしている。
- ・ 夜間利用が少ないコミセンであり、現在 9:00~21:00 で開館しているものの、9:00~20:00 に短縮してもよいのではないかと考えている。

②地域におけるネットワーク機能

- ・ 夏祭りは、PTA、青少協、地域のケアハウス等の地域の協力団体からも70名ほど運営サポートに入ってくれた。事業は地域の団体の協力を得ながら実施し、普段から交流を深めておくことを意識している。そこでできたネットワークを生かして「災害時地域支え合いステーション」の運営へとつながるとよい。
- ・ 子どもの利用が少ないコミセンである。子どもや若者とのつながりを作ることができるよう、親子向けのイベントを開催したり、老人クラブのイベントに子どもにも参加してもらい、大人と子どもでチームを作って遊んだりしている。また、コミセンの部屋でスタンプラリーを行ったり、イベントにパフォーマーを読んだりすることで、子どもに参加してもらおう話題・きっかけづくりを心掛けている。
- ・ 令和7年度は近隣の児童館が休館となるため、ニーズをくみ取りつつ、子ども向け事業を充実させたい。
- ・ 1回参加して終わりではなく、また継続して利用してもらえるような仕掛けを考えている。

③持続可能な協議会の運営

- ・ 運営委員の人手不足が課題である。特に若い男性が少なく、力仕事の面で苦勞することがある。
- ・ コミセンに来る子どもの父親に声掛けを行っており、特に子どもが中高生であると余裕があつてコミセンに関わってくれる男性もいるが、十分にリクルートできているわけではない。募集をして応募を待つ、という方法ではなかなか人材確保につながらない。
- ・ フルタイムで仕事をしながら運営委員（特に役員）として関わることは難しい。ただし、定年前に細くとも繋がりを作っておくことが大切で、地域に関心があれば時間ができた際に

(定年退職後等)コミセンに関わってくれる可能性もある。将来に向けた種蒔きだと考えて、長い目で繋がりづくりを行っている。

- ・ 役員になるかどうかで、同じ運営委員であっても負担感は大きく異なる。役員になるハードルは高く、今後役員が担当している役割をもう少し他の運営委員に分担してもらうなど、業務改革が必要だと感じており試行中である。
- ・ 運営委員はボランティアであるため、強制して行ってもらうものではない。運営委員として活動することにも家族の理解が必要であることは意識している。
- ・ 得手不得手や参加可能な時間は運営委員によって様々である。いろいろな参加パターンで関わることができることを周知するようにしている。
- ・ 令和6年は亜細亜大学のボランティアセンターを通してイベント補助スタッフの募集を行い、大学生3名がお手伝いに来てくれた。イベント企画は運営委員が主導していることから、そこに参画してもらうことはできなかったが、イベント当日は主体的に運営に関わってくれた。

■ 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※ コメント記載予定

第4章 総評

1. 全体に共通する事項について

(1) コミュニティ協議会に関する認知

① アンケート調査結果

- ・ 利用者アンケート調査
コミセンが地域住民によって運営されていることの認知度について「知っている」の割合は 80.3%であった。
- ・ 無作為抽出アンケート調査
コミュニティセンターが地域住民によって運営されていることを知っている人は 59.8%であり、これは令和元年度調査の 58.2%からほぼ変化はない。ただし、本アンケート回答者はコミュニティセンターに一定の関心がある人たちであると思われることに留意が必要である。

② コミュニティ協議会の意見

- ・ コミセンがボランティアで運営されていることを知らない方が多い。
- ・ 16 コミセンが全て同じ運営をしていると思っている人や、市役所の職員だと思っている人がいる。
- ・ 市の職員でもコミセンについて理解できていない人がいる。
- ・ コミセンについてもっと市民や職員に理解してもらえるような広報や取り組みをしてほしい。
- ・ 転入者にもコミセンをもっと知ってもらいたい。転入の際に地域団体の情報を伝えるなど、システムティックに誘う仕組みが欲しい。
- ・ コミセンの認知度を高めるため、市民課と共にコミセンの PR に取り組めないか。

③ 現状の取り組み

(1) 市の取り組み

- ・ 市民課で転入時にリーフレット「コミセンってなんだ」を配布
- ・ 毎回の市報でコミュニティ協議会の事業案内を掲載。令和3年度までは各協議会によるコラム順番に掲載
- ・ 節目で市報や季刊誌で特集記事を掲載
- ・ 新人職員研修において、武蔵野市のコミュニティ施策に関する講義の時間を設けている。

(2) コミュニティ協議会による取り組み

- ・ コミセンだより

- ・ 各コミュニティセンター窓口に「ボランティアで運営している」旨の掲示

⑤ 今後に向けて

- ・ ○○○（委員会の議論を踏まえて、現状の取り組みで改善できること、新規に取り組むべきことを記載予定）

【委員会で議論が必要な点】

- ・ 上述の「現状」を踏まえ、今後のコミュニティ協議会と行政の目指すべき方向性について、提言を検討。
- ・ なぜ、武蔵野市では住民のボランティアであるコミュニティ協議会がコミセンを運営し、コミュニティづくりに取り組んでいるのか、意義について知らせることが必要ではないか。
- ・ 武蔵野市のコミュニティづくりを知らせることが、その担い手への評価につながるのではないか。
- ・ 知らないことで、協議会にどのような不都合が生まれているかを言及したほうがよいのではないか。

(2) 事務負担について

① コミュニティ協議会の意見

- ・ 市への提出書類が大変で、ボランティアの域を超えてきている。
- ・ 市には報告等の事務量を極力減らしてほしい。
- ・ PC 操作や、書類作成、見積取得など、事務的な業務に慣れていない人が多く、一部の運営委員に負担がかかっている。
- ・ 地域に貢献したい思いで参加したが、任される業務が増えボランティア精神だけでできるものではない。
- ・ 役員の仕事量が増え、役員の担い手がない。フルタイムで仕事をしながらの役員は厳しい。
- ・ 役員とは別に、書類作成専用の別担当が欲しい。
- ・ コミセンの大きな課題は事務職がないこと。
- ・ 新しく運営委員になっても負担が多く定着しない。
- ・ 事務の電子化への対応が遅れ、効率化と利便性に立ち遅れている。
- ・ デジタル化されてもついていけない。

② 事務の現状

- ・ 別紙（資料2）を参照

③ 今後に向けて

- ・ ○○○（委員会の議論を踏まえて記載予定）

【委員会で議論が必要な点】

事務負担の軽減に向けて市で対応すべきはこと何か。実際に減らす余地や改善の余地はあるのか。

今後、市とコミュニティ協議会が目指すべき方向性について、提言を検討。

(3) 窓口当番手当について

① コミュニティ協議会の意見

- ・ 手当の額から若い人は誘えない。
- ・ 現状の手当の額を聞いて辞める人もいる。
- ・ 手当の見直しは必要
- ・ ある程度の専門性と責任感が要求され、窓口業務を補完する管理業務には残業代をつけてほしい。
- ・ 時給ではなくボランティアの謝礼なので、「人と関わりたい」という人でないと難しい。

② 窓口当番手当の位置づけ

- ・ コミュニティセンターの管理運営のため、コミュニティ協議会が、構成メンバーである窓口担当者（運営委員）に支払う謝礼の費用（実費弁償の意味合いも併せ持つ）。給与ではなく雇用関係は発生していない。

③ 今後に向けて

- ・ ○○○（委員会の議論を踏まえて記載予定）

【委員会で議論が必要な点】

窓口当番手当の趣旨も含め、どのような対応が必要か提言を検討。

(4) コミュニティ協議会の情報共有の進め方

① 現状に対する評価

- ・ ~~~~~

③ 現状の取り組み

- ・ 研連定例会、代表者会議、窓口研修、自主点検評価に関する意見交換等を通じて、他のコミュニティ協議会の取り組みについて共有の機会を持っている。

③ 今後に向けて

- ・ ~~~~~

2. 行政に対する提言について

- ・ 議論を踏まえ、行政に対する提言を記載する。

資料編

1. 議論の経過

- ・ 各評価委員会の議題を整理

2. 各コミュニティ協議会の概況

- ・ コミュニティ協議会の概要について、①施設概要、②利用者数の推移、③主な事業（を掲載予定

3. 各種調査結果

(1) 無作為抽出市民アンケート

- ・ 無作為抽出アンケートの調査結果を掲載

(2) 利用者アンケート

- ・ 各コミュニティセンター別の利用者アンケート調査の結果を掲載

(3) 意見交換会結果

- ・ コミュニティセンター別の意見交換会における意見一覧を掲載

(4) 視察

- ・ コミュニティセンター別の視察時の意見一覧を掲載